

日本海の甘エビ資源を適切に管理し、漁獲量の維持拡大へ

日本海漁業の経営安定化を目指して！



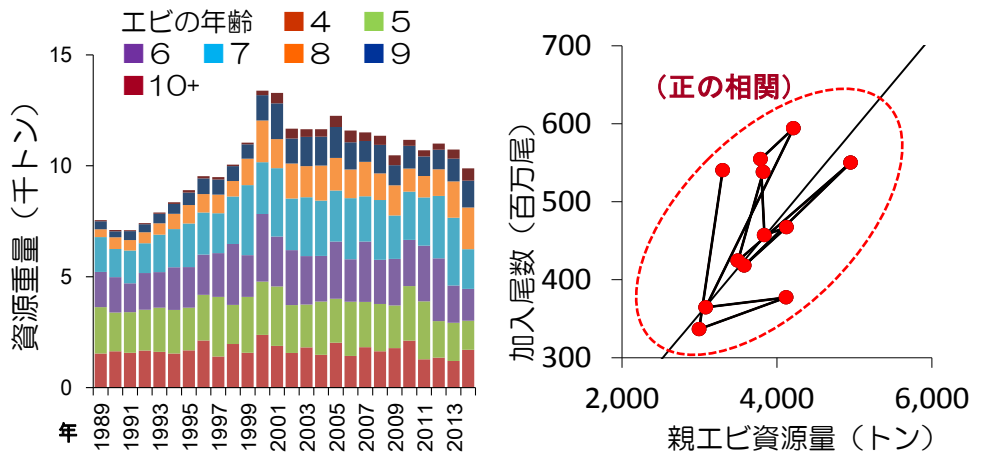
背景

- 日本海沿岸では、天然資源の減少等による漁獲量減少、魚価低迷、燃料・資材高騰により、廃業が相次いでいる。
- 甘エビ（ホッコクアカエビ）漁は規模が大きく、漁獲金額（20～30億円）も多く、影響が大きい。
- 漁獲量を増大させ経営を安定化させるために、甘エビの資源状態の把握・評価と、適切な資源管理手法の開発が急務。

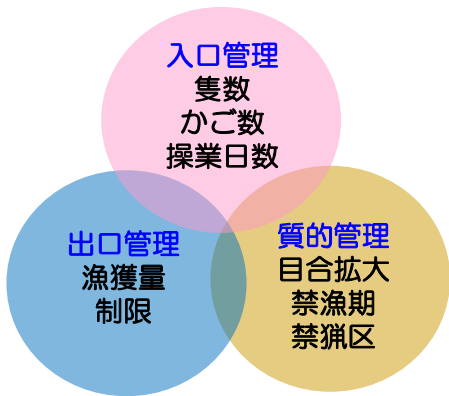
成果

1 資源状態の把握・解析

- 新技術（MLFA）により年齢組成を見直した。
- 2002年以降、資源量は緩やかに減少。
- 親の量と加入尾数に正の相関が見られた。

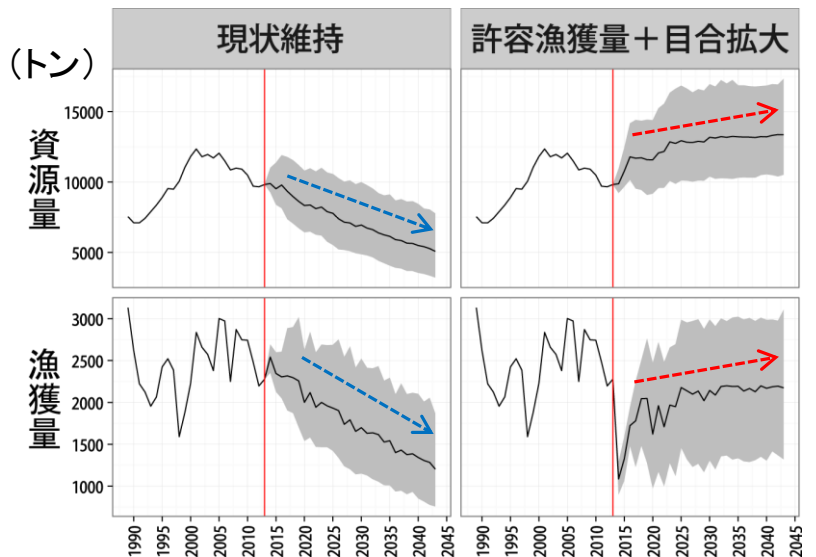


2 資源管理手法を開発



漁獲量の制限とエビ籠の網目（目合）の拡大を組み合わせ、小型エビを保護することで、親エビを増加させると、資源増大に効果的と判明。

3 資源量・漁獲量シミュレーション



資源管理すると、資源量と漁獲量はともに回復！

期待される効果

- 日本海産甘エビの資源状況を把握・解析し、適切な資源管理手法とその効果を明らかにしました。
- 日本海漁業振興対策における天然資源管理の取組として、漁業経営の安定化に活用されます。